

# Ryuko, in the Unfaithful Evening

a Film by Ujita Takashi <http://www.uzfilms.org>  
2000/35mm/color/Vista(1:1.85)/montréal/Edmir/Japan

宇治田隆史監督作品 悲しくなるほど不実な夜空に



**Furukawa Jyunichi**

**Hazuki Hotaru**  
in Ryuko, in the Unfaithful Evening

**Sawada Syunsuke**

Director/Ujita Takashi Screenplay/Ujita Takashi&Mukai Kosuke Director of Photography/Kondo Ryuto&Mukai Kosuke Camera Operator/Kondo Ryuto Lighting/Mukai Kosuke Assistant Directors/Kimura Yoahikatsu&Motoki Takashi  
Camera Assistant/Fujino Michiru&AYamashita Nobuhiro Production Manager/Motoki Takashi Yokoyama Hiroki&AUjita Takashi Art Design/Wake Toshiyuki Music/Matsumoto Akira (AKA-INU) Sound/Arai Makoto  
Editor/Ujita Takashi.Mukai Kosuke Title Design/Nishio Maki Production Assistance/Oni Pro./MidnightChild Theater/PLANET+1 (Editing Room) Production/Ochanoma Classics

宇治田隆史監督作品

2000年/35mm/カラー/ビスタサイズ(1:1.85)/モノラル/63分  
a Film by Ujita Takashi Ryuko, in the Unfaithful Evening  
2000/35mm/color/Vista(1:1.85)/monoral/63min/Japan

○PFF2000「LOVE&SEX」部門特別招待

○2000年第18回トリノ国際映画祭招待

○TOKYOFILMeX 2000コンペ部門招待

○2001モスクワ国際映画祭デビューキナポル部門特別招待

S T O R Y

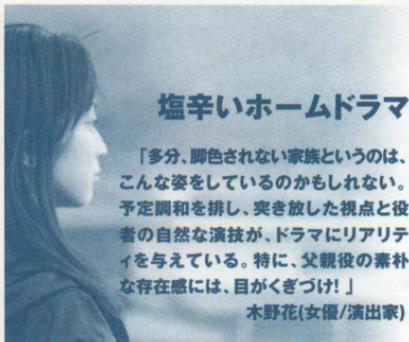
加藤龍子(27)は学校へもいかずまともに就職もしない弟・秀和と失業したばかりの父・松男(52)と地方のアパート暮らし。秀和との諍いもうんざりだが、失業後、気力を失った父親を見てのと自分が稼がなければならないことをなんとなく気づき始める。それは責任感でも義務感でもない、ただ「家族」である唯一の絆であるようにも見える。やがて龍子は町でAVに出演しその金を家庭に入れるようになる。ある日松男がレンタルビデオ屋の棚に偶然、娘が出演しているAVを見つけてしまう。松男は自分の父親としての無責任さと情けなさから龍子に当たるが……。

あんたたち私のウソで喰ってんじゃない

「悲しくなるほど不実な夜空に」は対象から距離をおいた「俯瞰」の映画だ。ホームドラマというのが監督自らのテーマであるが、ここでいうホームドラマとはテレビドラマのジャンルとは何の関係もない。このしげない、しかし決して孤独でもない父親の松男と、不幸を背負ってアダルト・ビデオに出演しているわけでもない長女の龍子、そして犯罪にまでは決して至らないであろう中途半端な不良の弟・秀和、彼ら三人は互いに執拗に干渉し合うわけでもない。家族は金銭的な理由から小さなアパートに共同で住んでいる三人でしかない。最早、執拗に愛し合ったり、憎み合ったりするまるでドラマのような「家族」はここには存在していないのである。

娘がアダルトビデオに出演したことで一瞬怒りを露にする父親も、弟が財布から遊ぶ金を盗んでいた事実を突き止めた姉の一時の怒りも、「あんたたち私のウソで喰ってんじゃない」という乾ききった一言であっけなく解決するしかない。不実ではあっても、人はそう簡単に悲しくなったりするものではないという乾いた俯瞰の距離間と断片的にも見える構図とカット割りが見事なドラマから観客を解放してくれるのである。

悲しくなるほど不実な夜空に



塩辛いホームドラマ

「多分、脚色されない家族というのが、こんな姿をしているのかもしれない。予定調和を排し、突き放した視点と役者の自然な演技が、ドラマにリアリティを与えている。特に、父親役の素朴な存在感には、目がくぎづけ!」

木野花(女優/演出家)

《70年代生まれ。芸大の二人の異端児》

宇治田隆史はその第一作「浪漫ポル」で「鬼畜大宴会」の熊切和嘉とともに登場した。二人とも物静かで互いに最も映画について語り合える仲だったという。卒業制作では熊切がアイオレンスを軸にショッキングな衝撃を与えたのに対して、宇治田は粘着質なスタイルでストリップ小屋を舞台にした第一作目「浪漫ポル」を作り上げる。それぞれ親友でありながら虎視眈々と卒業制作で相手を「打ちめす」チャンスを伺っていた。

宇治田は昔役態やかな熊切の思いもかけないワウに圧倒され、熊切は宇治田の振く「情感」に圧倒された。宇治田の作風は明らかに神代辰巳や田中登ら70年代初頭の「日活ロマンポル」路線に影響されており、要するに二人は共に彼らが生まれた時代である1970年代の初頭を舞台にした作品を並行して作っていたことにある。「鬼畜大宴会」による60年代という時代の神話の終焉と「浪漫ポル」における「うざったい」70年代の始まり。「浪漫ポル」には熊切も出演ストリップ小屋で働く顔の弱い青年役を演じた。

「鬼畜大宴会」が劇場公開された頃、宇治田は前作への思い入れは消えさり、熊切がプロへの第一歩を踏み始めるまでにすでに大学院で次回作「悲しくなるほど不実な夜空に」に取りかかっていた。主演の龍子にはピンク四天王作品やインディペンデント映画「百年の絶唱」「京極真珠」のヒロインとして活躍する、劇団「水族館劇場」の葉月堂。そして「鬼畜大宴会」に続いて熊切の「空の穴」では寺島進の恋敵を演じた共通の友人の澤田俊輔が弟・秀和を演じている。スタッフは、その多くを「鬼畜大宴会」+「浪漫ポル」組出身であり「どんてん生活」組でもある「真夜中の子供シスター」の主要メンバーが、そして音楽は「鬼畜大宴会」「どんてん生活」「空の穴」などで必要不可欠な音楽ユニット、松本卓・主宰の「赤犬」が担当した。松本卓は現在是在らおレベール「AMATERA U.S.A.」を立ち上げ、熊切和嘉の「空の穴」、山下敦弘監督「どんてん生活」のサウンドトラックを連続して発売し、「赤犬」の集大成CD「赤犬大全」も発売した。

Cast

- 加藤龍子/葉月堂(「百年の絶唱」「京極真珠」)
- 加藤秀和/澤田俊輔(「鬼畜大宴会」「空の穴」)
- 加藤松男/古河潤一
- 梅川お茶子/川島佳帆里
- 夏目高仁/小澤義明
- 犬松作/前田博通
- 女子高中生/上恵美、美口やよい
- 将軍/小川ト

Staff

- 監督/宇治田隆史
- 脚本/宇治田隆史、向井康介
- 撮影監督/近藤龍人、向井康介
- カメラ/近藤龍人
- 照明/向井康介
- 音楽/赤犬
- 音楽監督/松本卓(「鬼畜大宴会」「どんてん生活」「空の穴」)
- 製作/お茶の関ケラシックス
- 提供/PLANET study+1
- 配給/ピタース・エンド+スリーピン

T O K Y O

2001年12/22(土)~2002年1/4(金)

連日12/30/14:05/15:40/17:15/18:50 但し、12/31の18:50は休映

中野武蔵野ホール

phone 03-3389-3301  
http://www.musashino.co.jp

O S A K A

2002年 2/23(土)~3/8(金)

連日レイトショーPM 9:10~ ※平日は休映

テアトル梅田  
梅田 ロフト B 1  
06-6369-1080